

群馬  
大学



# 群馬大学基金

～ 2018 年度事業報告 ～

## 目 次

I. 事業概要	．．．． 1 ページ
II. 活動報告	．．．． 1 ページ
★学生の修学支援に資する事業	．．．． 1 ページ
① 海外派遣について	．．．． 1 ページ
【活動報告 1】	．．．． 1 ページ
【活動報告 2】	．．．． 2 ページ
② 経済的困窮学生に対する修学支援	．．．． 3 ページ
★大学運営全般に係る事業	．．．． 3 ページ
★重粒子線治療の普及・発展に資する事業	．．．． 4 ページ
III. 収支	．．．． 5 ページ
【2018 年度群馬大学基金収入支出決算書】	．．．． 6 ページ
IV. 後記	．．．． 7 ページ
群馬大学公式 SNS アカウント	．．．． 7 ページ

## I 事業概要

本学では学生に対する支援、教育研究の質の向上および社会貢献活動の充実等を図ることを目的とし、「群馬大学基金」による寄附金により次に掲げる事業を実施しています。

- ★学生の修学支援に資する事業
- ★大学運営全般に係る事業
- ★重粒子線治療の普及・発展に資する事業

2018年度では、「学生の修学支援に資する事業」として、海外留学に係る費用の一部補助及び経済的困窮学生に対する修学支援金の給付、「大学運営全般に係る事業」として、本学教育学部附属幼稚園の園庭等教育環境の整備、「重粒子線治療の普及・発展に資する事業」として、平成28年度から継続している『重粒子線マイクロサージェリーの臨床応用に対する研究開発』を行いました。

## II 活動報告

### ★学生の修学支援に資する事業

#### ①海外派遣について

本学では、グローバル社会において活躍できる人材を育成する目的で、留学意欲のある学生に対し海外派遣のための奨学金制度を実施しています。2018年度は延べ225人の学生に海外留学を経験させることができ、そのうち34人について、本基金からの支援を受けて海外留学することができました。

派遣先国は【アメリカ、オーストラリア、イギリス、マレーシア、韓国、台湾、モンゴル、スロベニア】となっています。2017年度の派遣学生数は209人であり、本基金を通じた寄付者の皆様の経済的支援が多く多くの学生にとって留学への後押しとなっています。

### 【活動報告1】

#### ◆ウーロンゴン大学短期英語研修プログラム

理工学部化学・生物化学科2年 本庄紗季



【写真：バレー部の友達と】

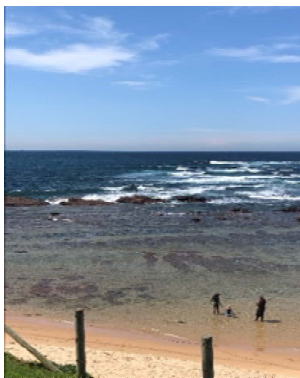
私は1ヶ月間ウーロンゴン大学短期英語研修に参加してきました。高校2年生の頃にオーストラリアに行ったとき、豊かな自然や温かい人に惹かれ、次は留学して英語を学びたいと思っていたのでこの研修への参加を決めました。英語力に自信はなく、1ヶ月間も海外で生活することに不安はありましたが、行ってみると毎日が新しい経験の連続で、楽しく充実した日々を過ごすことができました。また経済的な心配もありましたが、奨学金を支給してもらえたのでとても助かりました。私はこの研修を通して、語学力以上に自分で決めたことをやり遂げる力、困難に立ち向かうポジティブさ、積極的に行動できる力が大切だと

気づきました。大学の授業や行事、部活に参加する中で、やはり言語の壁を感じたこともあり



【写真：ウーロンゴン大学 O-Week】

ました。しかし楽しく何かをすることに焦点を当て、いろいろな交流の場に行くと英語が合っているかは別としてたくさんしゃべる機会を持つことができ、かけがえのないたくさんの友達を作ることができました。できなくても前向きに挑戦し続けることが大切で、それがいつか語学力やコミュニケーション力を向上させるのではないかと感じました。今回の留学をサポートくださった方々、群馬大学基金の寄附者の方々に感謝しながら、この貴重な経験を生かしてこれから様々なことに挑戦していきたいと思います。



【写真：Bulli Beach にて】



【写真：英語の授業での劇】

## 【活動報告 2】

### ◆交換留学（サンディエゴ州立大学）

教育学部英語専攻 4年 田口裕亮

私は、2019年1月よりアメリカのサンディエゴ州立大学へ1年間の交換留学をしています。早いことで、こちらに派遣されて3か月が経ちました。この留学は語学学校へ通うのではなく、現地の学生と同様に大学へ通うということで、授業やテストをこなすことは容易ではありません。これまでに幾度となく悔しい思いをしてきました。また、授業は、専攻である言語学の講義をとるほか、TA (Teaching Assistant) として日本語の授業にも参加しています。自分の母国語が学ばれている光景は、とても面白いです。私は、卒業後は英語の教員になる予定のため、この経験は必ず活かせると思っています。肝心の英語の能力ですが、どのくらい伸びているのかはわかりません。ただ、毎日自分の英語を意識して生活しないと、あまり変わらないのだろうなと思っています。毎日、自分の生活を見直し、1日1日を充実させることで、少しでも意義のある留学にしようと努め

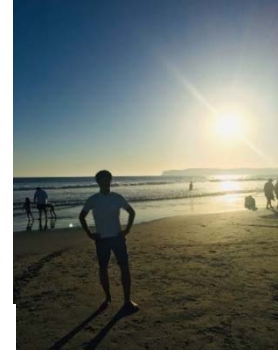


【写真：Old Town にて】



【写真：SDSU にて】

ています。このように、苦しい状況と向き合って生活していることが何よりも良い経験になるのだろうと思っています。群馬大学基金の寄附者の方々には、このような貴重な経験をするためにとてもサポートしていただき、大変ありがとうございます。悔いの残らないよう、残りの留学生活を送りたいと思います。



【写真：Coronado Beach にて】

## ②経済的困窮学生に対する修学支援

群馬大学基金 2018 年度計画に基づく「群馬大学基金における経済的困窮学生に対する修学支援事業計画」により、授業料免除申請者の中から経済的困窮度が極めて高く、意欲と能力のある学生 12 名（前期 6 名、後期 6 名）に修学支援金を給付することができました。

ご寄附をいただいた皆様に感謝をし、地域に貢献できる多くの学生を育てていきます。

引き続き本事業にご賛同いただけますよう、よろしく願いいたします。

## ★大学運営全般に係る事業

附属幼稚園園庭等環境整備を支援する「あずさプロジェクト」事業

元気な子ども達を育て上げてきた附属幼稚園ですが、園舎も子ども達を見守り続け半世紀の時が流れ建物の老朽化から改修が広く望まれていましたが、この度、平成 29～30 年度国庫事業として附属幼稚園舎の全面的な改築（新営）工事が行われ、同時に園児達が健康でよりいきいきと活動できる環境を整えていく目的で幼稚園のシンボルツリーである「あずさ」の木の移植と併せて、群馬大学基金を活用した園庭等整備を実施しました。



【写真：築山、すべり台で遊ぶ園児たち】

結果として延べ 500 件を越える寄附者の方々のご賛同をいただき、新しい木々の植樹、築山・砂場の造成、滑り台の購入及び設置等の事業を行い、新園舎の竣工と同時に、園児達が遊ぶのに申し分のない園庭環境を整えることができました。

ご賛同いただいた寄附者の皆様には感謝を申し上げるとともに、今後も園児達が健康でよりいきいきと活動できる環境作りを目指していきます。

## ★重粒子線治療の普及・発展に資する事業

「患者位置決め支援装置の開発」について

重粒子線医学研究センター 久保田 佳樹

患者位置決めは照射直前の患者位置を照射位置に動かすことであり、放射線治療を安全に行うために必要な作業の一つです。重粒子線は線量集中性が良い分、より高精度に患者位置決めを行う必要があります。群馬大学重粒子線医学研究センターでは、現在診療放射線技師が手動で行っている患者位置決めを自動化・高速化するために、患者位置決め支援装置 (GHMC Automatic Patient Positioning System; GAPPS) の研究開発を進めてきました。

患者位置決めを自動化するためには、1) これまで放射線技師が行ってきた精度と同程度以上の性能を有する、2) これまでの放射線技師が行う以上に高速な照合が可能、3) ミスの起こりにくい操作性の良いシステムが必要であるため、それらを備えた GAPPS の開発を行いました。

開発した GAPPS の画面キャプチャは、以下図のとおりです。GAPPS の計算精度を評価するため、頭頸部ファントムを用いた評価と重粒子線治療を受けた患者画像での評価を行いました。ファントム評価では、 $0.17 \pm 0.05$  mm の誤差であることが明らかとなり、また、前立腺がん患者画像評価では  $0.32 \pm 0.21$  mm、頭頸部がん患者画像評価では  $0.49 \pm 0.22$  mm の誤差であることが明らかとなりました。計算速度はおよそ 10 秒であり、これらの精度は臨床で用いるのに十分であると考え、現在 GAPPS の本格運用に向けた準備を進めております。

ご寄附をいただいた皆様に感謝し、今後も安全・安心に重粒子線治療を提供できるよう、努めてまいります。

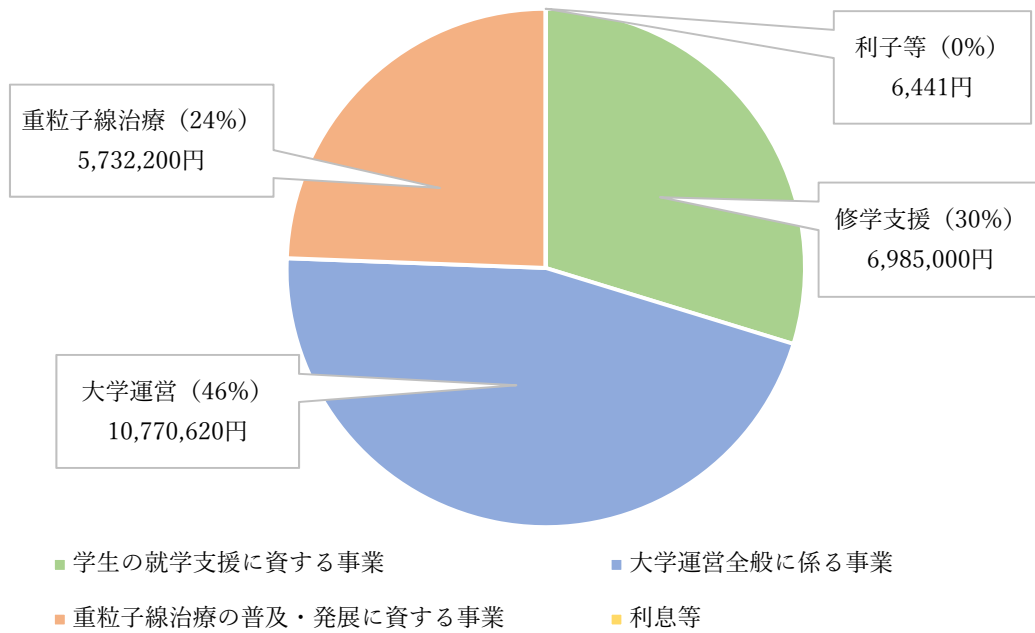


図. GAPPS の画面キャプチャ。(a)基本画面。(b)計算用マスク設定画面。(c)計算後確認用チェッカボード画面。

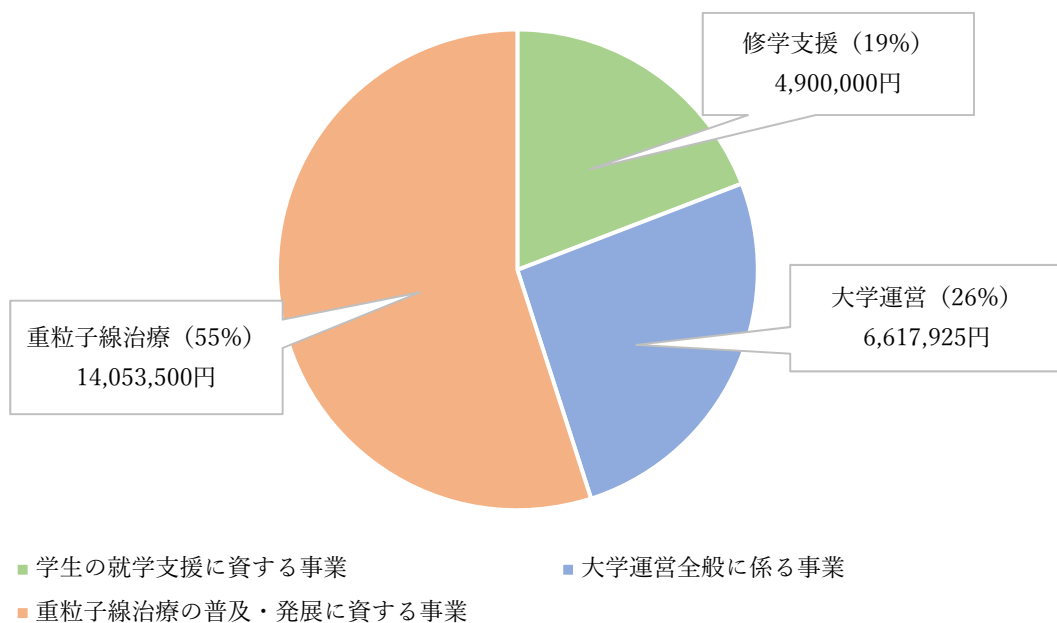
### III 収支

「群馬大学基金」を2016年10月に創設し寄附を募り、これまでにご寄附いただいた額（収入）および2018年度についての支出内訳は以下のとおりです。

#### 2018年度群馬大学基金 収入額（23,494,261円）



#### 2018年度群馬大学基金 支出額（25,571,425円）





## IV 後記

群馬大学は、北関東を代表する総合大学として、豊かな教養と高度な専門性をもった人材を育成し、先端的かつ世界水準の学術研究を推進します。そして地域社会から世界まで開かれた大学として貢献していきます。

2016年度に創設された【群馬大学基金】は、2018年度では「学生の修学支援に資する事業」で4,900千円、「大学運営全般に係る事業」で6,618千円、「重粒子線治療の普及・発展に資する事業」で14,054千円を支出いたしました。事業内容については活動報告のとおりです。

2019年度においても、修学支援として海外留学支援及び経済的困窮学生で意欲と能力のある学生に対し修学支援金を給付する予定です。

また、大学運営として群馬大学基金グローバルチャレンジプロジェクトという、学生個人あるいは学生グループが自ら企画した、ユニークかつキラリと光る個性ある海外での交流あるいは研修（研究）に対して奨学援助の実施を行う予定です。

さらに、重粒子線治療の普及・発展にあたり、患者さんへ安全かつ安心、そして質の良い治療を提供するために、現在稼動しております重粒子線治療装置制御システムを更新する予定であります。

引き続き、学生への修学支援、大学運営全般、重粒子線治療の普及・発展に努めていきますので、今後とも皆様のご支援・ご協力を、よろしくお願い致します。

### 群馬大学公式 SNS アカウント

YouTube



Twitter



Facebook



LINE



Instagram



★★ 群馬大学キャッチコピー ★★

群を抜け  
駆けろ  
世界を



群馬大学で思いきり学び、経験し、地域から世界に飛び出して行って欲しいという、学生へのメッセージを込めました。何かを気にすることなく自ら決めた道で目指す学問を追い、どこまでも伸び、どんどん抜きんでて良い。疾走する馬のような勢いと真っ直ぐさを持って、地域から世界を駆け回る人材を育てたいというイメージです。

国立大学法人群馬大学 基金事務室（総務部総務課広報係）

住 所 : 〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地

TEL : 027-220-7018

FAX : 027-220-7012

MAIL : kikin@jimu.gunma-u.ac.jp

HP : <https://kikin.gunma-u.ac.jp>